

## 津久井やまゆり園事件追悼式 市長式辞

本日ここに、津久井やまゆり園事件追悼式を執り行うにあたり、亡くなられた方々の御霊に、相模原市民を代表し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

十九名の尊い命が失われた、あの日から五年の歳月が経とうとしております。

事件の犠牲となられた方々は、この相模原の地で、津久井やまゆり園の職員をはじめ、地域の多くの皆様に、愛されながら、穏やかな毎日を過ごされていきました。

あの日、その日常が一瞬にして失われ、未来への扉が閉ざされてしまった無念さに思いをいたしますとき、今なお、尽きる事のない悲しみと強い憤りがこみ上げてまいります。

また、愛する家族を突然奪われた御遺族の皆様方の、決して癒えることのない御心痛をお察しいたしますと、お慰めする言葉もございません。

改めて衷心よりお悔やみを申し上げます。

こうした悲惨な事件が二度と起こらないようにするためにも、事件の記憶を風化させてはなりません。

一人ひとりが、障がいのある方への理解を一層深め、相互に人格や個性を尊重し合う、偏見や差別のない共生社会を築いていくことが、私たちの使命でございます。

そのために、本市では、障がいの有無にかかわらず、あらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らすことのできる「共にささえあい 生きる社会」の実現に向けて、障がいへの理解促進や権利擁護に向けた取組を進めているところでございます。

今後も、御遺族の皆様、津久井やまゆり園の利用者の皆様、御家族の皆様と、対話を通して共に考え、皆様に寄り添った支援に努めるとともに、障がいのある方々が、地域や周囲の皆様の深い理解と温かな支えの中で暮らしていくことができるよう、神奈川県や関係団体等ともしっかりと連携を図りながら、一つひとつの課題に真摯に向き合い、七十二万市民とともに邁進していくことを、お誓い申し上げます。

ここに改めて、十九名の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げ、追悼の意を表しますとともに、御遺族の皆様方が、在りし日の思い出とともに心穏やかな日々を過ごされることを心から祈念し、式辞といたします。

令和三年七月二十日  
相模原市長 本村賢太郎